

腎友さがみはら

腎友会ニュース 第145号

相模原市

発行日：平成29年3月26日

責任者：羽田 弥

相模原市南区南台 2-8-1-301 TEL042(748)3773



早春の富士と河津桜(松田町)

さがみ循環器クリニック 宅田正一様 (賛助会員)

目次

- ・ NPO法人れんきょう主催の相模原市行政との二つの懇親会の結果報告 2
- ・ 活動日誌 3
- ・ 『投稿』 みんなの広場『ピッカピカの？ 役員一年生』 4
- ・ ちょっといい話 ある新聞のコラム欄より 5
- ・ 行事予定のお知らせ 6

NPO 法人れんきょう主催の

相模原市行政との二つ懇談会の結果報告

相模原市腎友会が加盟している NPO 法人れんきょう（相模原市障害児者福祉団体連絡協議会）は今年で 5 回目になる相模原市長との懇談会を去る 2 月 2 日（木）に、また、相模原市健康福祉局長以下市の関係課長と市内の障がい者団体の代表との懇談会を去る 2 月 5 日（日）に開催しました。この両懇談会に先立ち「れんきょう」は市内の 30 の障がい者団体を対象に福祉施策に関しての相模原市への提案・要望を、また、津久井やまりゆり園事件に鑑みて共生社会実現に向けて我々は何を為すべきかそして市に何を望むかをアンケート調査しております。

まず、市長との懇談会についてですが、相模原市側からは、加山市長、梅沢副市長、熊坂健康福祉局長、鈴木福祉部長ほか、れんきょう側からは、鈴木会長、古山会計、島森事務局長、羽田が出席しました。前述のアンケート結果について概略を報告し、特に以下の 3 点を提案致しました。1 つは、共生社会実現に向けて、やまゆり園事件発生の地元として「障害のある人もない人もすべての人が安心して暮らしていける共生社会づくり相模原宣言（仮称）」を発していただきたい、2 つ目は、前述の福祉施策に関するアンケートで障がい者スポーツに関しての要望が多かったこともあり、市は障がい者スポーツも含めてスポーツ全般にしっかり取り組んでいただく為に部局横断的なスポーツに関する組織を設置して欲しい、3 つ目は、市内の障がい者団体は新規入会者が少なく苦慮している、入会者増に関して市の応援・協力を要請しました。市長からは、共生社会実現についてはしっかりと取り組んでゆく、スポーツ組織については現在検討しているとの回答がありました。

福祉施策懇談会については、市側からは熊坂健康福祉局長、鈴木福祉部長、佐藤障害政策課長ほか関係の課長を含めて総勢 13 名が、障がい者団体側からは、参加を呼び掛けた相模原市内の 30 の障がい者団体のうち、15 団体の代表など 22 名が出席しました。前述のアンケートにより提出した相模原市への提案・要望などを中心に活発な意見交換がなされ、相模原市の見解を聞きました。私達相模原市腎友会からは、「重度障害者医療費助成制度」いわゆるマル障の現行の形での継続、「相模原市重度障害者等福祉手当」の継続、それと、タクシー利用助成の金額の増額を要望しました。「重度障害者医療費助成制度」「相模原市重度障害者等福祉手当」については平成 29 年度も現行の形で継続すると表明がありました。残念ながら、タクシー利用助成金額の増額はかないませんでした。（羽田記）

活 動 日 誌

※1 氏名は参加者を示します。順不同です。

※2 「NPO法人 れんきょう」は、相模原市腎友会が加盟している「特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会」を示します。

01/05 (木) 相模原市賀詞交歓会 羽田

01/08 (日) 機関紙腎友さがみはら印刷・発行 館盛、稲田、宅田、北村、小久保、工藤、加賀谷、
二ノ宮、柴崎、羽田

01/16 (月) NPO 法人れんきょう理事会 羽田

01/19 (水) 障害政策課の相模原市腎友会に関するヒアリング 羽田

01/27 (金) 相模原市福祉有償運送運営協議会 (NPO 法人れんきょう) 羽田

01/28 (土) 障害のある方の新成人を祝う会 羽田

01/29 (日) 県腎友会組織拡大委員会 加賀谷

01/29 (日) 県腎友会医療福祉・災害対策委員会 宅田

01/29 (日) 県腎友会理事会 平野、加賀谷、宅田

02/02 (木) 相模原市長との懇談会 (NPO 法人れんきょう) 羽田

02/03 (金) 全腎協関東ブロック災害対策委員会 宅田

02/05 (日) 平成28年度福祉施策懇談会 (NPO 法人れんきょう) 羽田

02/09 (木) 相模原市医師会機関紙モニター会議 (NPO 法人れんきょう) 羽田

02/12 (日) 第208回役員会 館盛、加賀谷、平野、宅田、北村、柴崎、工藤、関口、二ノ宮、
小久保、稲田、羽田

02/14 (火) 健康づくり会議幹事会 工藤

02/14 (火) 県腎友会40周年記念誌最終校正 平野

02/18 (土) 健康づくり会議懇親会 工藤

02/25 (土) 連協しゃべり場 (NPO 法人れんきょう) 小久保、工藤、二ノ宮

02/26 (日) 機関紙編集委員会

02/26 (日) 県腎友会広報委員会 石亀

03/01 (水) 相模原市障害者自立支援協議会 羽田

03/12 (日) てらさき雄介県議新春のつどい 羽田

ちょっといい話」 ある新聞のコラム欄より

大学で学生生活を謳歌したいと夢を描きつつも、不安を抱える一人の高校生がいた。彼は病の影響で片手しか自由に動かせず、靴ひもが結べない▼そこで彼は世界的スポーツ用品企業に手紙を書いた。「一人で洋服を着ることはできますが、今でも親にシューズの紐を締めてもらわなくてはなりません。自分で自分のことを全てできるようになりたい・・・」(「ナイキ・ジャパン」プレスリリース)。受け取った関係者は3年を費やし、彼の夢をかなえる靴を開発し、商品化した▼「一人」のために尽力した結果、その一人だけでなく、多くの人に喜びを届けられることがある。

『 ピッカピカの？ 役員一年生 』

相模大野内科腎クリニック ニノ宮 美和子

「〇〇さん、その後体調はいかがですか？」

偶数月の第一日曜日の定例役員会はこんな風に始まる。前回から約二ヶ月間の役員動静を確かめる。動静というより体調確認だ。初めて参加した時には驚いた。風邪を引いたとか、お腹をこわしたとか、そんな簡単な報告ではない。手術をして回復中ということがよくある。

(えっ！ どうしてそんな方がここへ来ているの?) わたしの心の声だ。

透析の身になり、腎友会という患者会があることを知り、入会した。若い？ 役員が不足しているということで役員会への出席を促された。そして冒頭のやりとり、まず、びっくりした。その上、隔月の役員会だから内容も盛りだくさん。会長の司会のもと、次々に案件が話し合われる。役員ひとり一人、熱意をもって取り組んでいることが伝わってきた。わたしも仲間入りをさせてもらった。

春から秋にかけて腎友会の活動は目白押しである。

総会・・・腎友会一年間の活動報告が主であるが、昼食を挟んでミニ音楽鑑賞会が開かれる。今年度は小学生のアンサンブルや看護師さん等のマリンバ演奏だった。この音楽会はだいぶ前から役員が出演交渉をする。

医療講演会・・・会員が午前中に医療・栄養講演を聴き、午後はテーマを決め、グループに分かれ、意見交換をする。透析年月の短い人、長い人それぞれの話に耳を傾ける。各グループに看護師さんがいて進行と助言をする。市内の各透析施設の会員が集まって透析医療や栄養について学び、情報交換のできる場だ。わたしは会場設営の手伝いくらいしかできなかったが、講演者の依頼や資料作成、グループ編成、会場や弁当の手配等々の雑務は役員で分担する。

年二回の親睦旅行・・・これもまた、市内の会員との楽しい交流の場である。目的地の選定から旅行会社との交渉を役員がする。今年度は、『山梨の桃食べ放題と温泉』、『千葉の海鮮浜焼き』ツアーだった。桃狩りでは、会長さんが高カリウム血症改善剤を多めに準備したり、海鮮浜焼きでは、旅行幹事の役員が必須アイテムの軍手を人数分手配したり、細やかな配慮がされた。

十月には NPO 法人神奈川県腎友会として相模大野駅前前で全腎協の臓器移植普及推進を促すリーフレットとティッシュの配布をした。子供連れに受け取ってもらうために風船も準備した。(風船を膨らますことに体力がいることを知った。) 約千部の配布をしたが、とても暑い日で、ふだん疲れを感じないわたしもバテてしまった。ほとんどの役員がわたし

より年長者。しかし、誰も愚痴は言わない。残った分をポスティングしてくれると自ら申し出る役員がいてその献身ぶりに驚いた。

この他、NPO れんきょう(相模原市障害児者福祉団体連絡協議会)の参加団体として会長、副会長が理事として活動したり、市の健康フェスタで市民向けの腎臓病の話の講演会と相談会の企画運営をしたり、県の作品展の開催を手伝ったりしている。腎友さがみはらの編集発行もある。

また、市と重度障害者医療助成制度、福祉手当、福祉タクシー利用助成の継続の交渉もしている。役員一年生のわたしが知らない活動もまだまだたくさんありそうだ。

すべての活動は腎友会を立ち上げた先人たちが獲得してくれた様々な権利を守ることにつながる。

腎友会の役員は皆、一生懸命であり、不満を言わない。この一年で感じたことだ。役員となった身では手前味噌に感じられてしまうかもしれないが……。

わたしも楽しんで役員を続けたい。会の目下の課題は会員を増やすことだ。

『みなさーん、腎友会に入ってくださいーい！』

「ちよつといい話」

ある新聞のコラム欄より

「僕を救ってくれた命の恩人です」。結婚式の披露宴で新郎が紹介すると一人の男性が立った▼新郎は小学生の時、体育の授業で腹部を強打し、病院に搬送された。肝臓破裂で出血も多量。生死をさまようも手術が成功し、奇跡的に一命を取り留めた。その時の感謝を込め、当時の執刀医を晴れ舞台に招いたのである▼祝辞に立つ執刀医。その言葉は以外なものだった。怪我は、医師の経験からみれば極めて厳しい状態。だが若い少年は懸命に耐え、見事に生還した。「彼は人間に備わる『生きようとする力』の逞しさを私に教えてくれました。その力を患者から引き出すことが、医療の役目であることに気づかせてくれたのです」と。そして最後に言った。「彼こそが私の恩人です」▼著名な心臓外科医のバーナード・ラウン氏は「私にとって何よりも偉大な教師は、多くの患者である」(小泉直子訳『治せる医師・治せない医師』築地書館)と記す。

今後の行事予定のお知らせ

35回 相模原市腎友会定期総会

日時 平成29年6月4日(日) 10時から

会場 あじさい会館6階 第一第二展示室

催し物 昨年に続いて、大好評のマリンバ演奏
予定しています

第34回 医療・栄養講演会並びに懇談会

日時 平成29年7月2日(日) 10時から

会場 市民会館3階 第一大会議室

第63回 ふれあい会 日帰り旅行

日時 平成29年5月21日(日)

行き先 白樺湖散策と温泉入浴の日帰り旅

編集後記

本年度も最後となりました。

本年度の皆様のご協力に感謝いたします。

みんなの広場への投稿、表紙のカラー写真等次年度は期待しております。